

スキー国体、岩手で開催

特別国民体育大会冬季大会のスキー競技会は2月17日から20日まで、岩手県八幡平市で開催され、男女総合は北海道、女子総合は長野県がそれぞれ1位となった。今大会は新型コロナウイルス感染防止に配慮しながらも、可能な範囲で会場に観客を入れての開催となり、開催県の岩手県選手団や世界で活躍するトップアスリートへ熱い声援が送られた。



スペシャルジャンプ成年男子B ©JSP0



ジャイアントスラローム少年男子

複数の五輪大会でメダルを獲得した50歳の葛西紀明選手（北海道）が初めて国体に出場し、ジャンプ成年男子Bで5位の成績を残した。北京五輪のノルディック複合団体銅メダリストで、今大会を最後に現役引退する永井秀昭選手（岐阜県）は、成年男子B複合で優勝し、有終の美を飾った。

今年の本大会は、2020年に新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となった鹿児島県で10月7日から開催される。来年開催の第78回大会から「国民スポーツ大会」に名称変更されるため、「国民体育大会」としては最後の大会となる。

Jリーグ、今年で30周年 連覇狙う横浜Mが白星スタート

Jリーグは今年でリーグ創設30周年を迎えた。Jリーグ1部（J1リーグ）は2月17日、川崎市の等々力陸上競技場で開幕戦の1試合が行われ、連覇を狙う横浜F・マリノス（横浜M）が昨シーズン2位の川崎フロンターレを2-1で下し、6度目の優勝に向けて白星スタートを切った。12月3日のシーズン終了まで熱戦が繰り広げられる。

Jリーグは1993年5月15日、10チームによって初のプロリーグ戦がスタート。横浜マリノス（現在の横浜F・マリノスの前身）とヴェルディ川崎（現在の東京ヴェルディの前身）の対戦で、その歴史が始まった。それまでは、実業団チームに所属するアマチュア選手による日本リーグとして行われていたが、人気も実力も世界のサッカーから大きく見劣りしていた。

98年にはワールドカップに初めて日本代表が出場し、プロ化による選手強化が実った。99年からJ1リーグ16チーム、J2リーグ2部（J2リーグ）10チームの2部制となり、2014年からJリーグ3部（J3リーグ）も誕生。来シーズンからすべてのリーグが20チーム編成となる。



川崎-横浜M。前半、先制ゴールを決める西村拓真選手

12歳の小野寺選手が最年少メダリスト

スケートボード世界選手権



3位に入った西矢選手 (AFP=時事)

スケートボードのストリート世界選手権は2月5日、アラブ首長国連邦で決勝が行われ、男子で12歳の小野寺吟雲選手が3位に入り、同種目で最年少メダリストとなった。小野寺選手は中学1年生。7歳で競技を始め、昨年11月の日本選手権に初出場優勝した小野寺選手は「決勝で決めたい」と話し、胸を張った。1位で通過した準決勝でも高難度の技を連発。大舞台で力を発揮できた理由について聞かれ、特になし。ただ好きでスケボーをやっているだけ」と淡々と話した。

女子で東京五輪金メダリストの西矢椛選手は3位に終わり、「決めた技を全部決め切れなかったので悔しい」と反省点を口にした。



世界選手権から帰国し、取材に応じた小野寺選手（左）と西矢選手（右）

JSP0からのお知らせ JSP0は、3月24日、25日に「JAPAN GAMES 有明パーク」を有明ガーデンにて開催します。スケートボードを含むアーバンスポーツの体験などを行うことができます。ぜひ、遊びに来てください！詳細は、JSP0のホームページをご確認ください。

3大会ぶりの優勝目指す日本

ワールド・ベースボール・クラシックが開幕



打撃試合後、ボールを手に言葉を交わすダルビッシュ選手（右）と大谷選手

第5回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）が3月にいよいよ開幕する。前回大会は2017年に開催されたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響などにより延期され、今大会は5年ぶりとなる。

日本は第1、2回大会で優勝したが、その後の2大会は準決勝で敗退。今大会では3大会ぶり3度目の世界一を目指す。

今回の日本チームには、第2回の09年大会で優勝を経験しているダルビッシュ有投手（パドレス）や投打二刀流で今や大リーグのトップ選手となった大谷翔平選手（エンゼルス）、昨年セ・リーグで三冠王に輝いた村上宗隆内野手（ヤクルト）らそうそうたるメンバーが名前を連ねた。

ダルビッシュ投手は「ミスをしたら批判もある。また、成功を収めれば、何にも代え難い達成感と称賛を得られる世界。そのためにも120パーセントの力を出し」と自らを鼓舞するように話した。栗山英樹監督は「すごく楽しみなメンバーで（大会に）いける」と話した。

大会は、参加する20チームが4組に分かれて1次リーグを戦う。日本は中国、韓国、チェコ、オーストラリアと同じB組に入り、初戦は9日に東京ドームで中国とぶつかる。各組の成績上位2チームが準決勝に進み、これ以降はトーナメント戦となり、準決勝、決勝は米国マイアミ州で20日と21日に行われる。



中日との対戦試合の4回、安打を放つ村上選手